

下記の通り記事内容につき訂正させていただきます。関係者の皆さまには、ご迷惑をおかけいたしました事、お詫び申し上げます。

（公社）日本産業衛生学会 産業医部会会報編集委員会

p.26 表中

- ・北陸甲信越地方会 第60回北陸甲信越地方会総会の開催日：  
（誤）10月23日（日）  
→（正）9月15日（日）

p.27 表中

- ・九州地方会の共催：  
（誤）「日本産業衛生学会九州地方会看護部会」  
→（正）「ストレス関連疾患予防センター」

以上

日本産業衛生学会

第61号 平成29年8月22日

# 産業医部会会報

公益社団法人 日本産業衛生学会 産業医部会事務局  
〒160-0022  
東京都新宿区新宿1-29-8 公衛ビル内  
TEL 03-3356-1536  
FAX 03-5362-3746  
e-mail:sanei.4bukai@nifty.com



## 巻頭言

### 『産業医部会と地域産業保健』

日本産業衛生学会東北地方会長  
東北大学環境・安全推進センター 黒 澤 一  
東北大学大学院医学系研究科産業医学分野 教授・統括産業医

産業医部会は平成4年に産業医活動の充実と発展を目的に設立されたと伺っています。産業医・産業看護全国協議会、春の学術集会の産業医フォーラム、産業医プロフェッショナルコースの開催、専門医制度委員会への協力、各地方部会による研修会の開催等の活動を行ってきており、今後も益々その役割が重要なものとなるよう期待しております。

先般、厚生労働省が設置した「産業医制度の在り方に関する検討会」の報告書が公表されました。ストレスチェックの導入が直接的な契機となったと思うのですが、過重労働やメンタルヘルス対策、病気と職業生活の両立支援、その他、産業医が対応すべき業務の質と量が以前とは格段に異なっていることが確かな背景となって、この検討会が始まったものと思います。東北自動車道は昭和47年に開通しましたが、同じ年の6月8日に労働安全衛生法が施行されています。この当時と比べれば、隔世の感であり、産業医の役割や、そもそも産業医の存在意義自体が変容しているのは当然のことかもしれません。

検討会では、求められる労働衛生管理、産業医及び産業医以外の産業保健スタッフに期待される役割、小規模事業場における労働衛生管理の促進について、その他産業保健の機能向上等に関すること、の4項目についてまとめられました。産業医は産業保健チームのリーダー的存在であり、構成員の専門性を活かし、効率的に産業保健を推進していくことが、あるべき一つの姿として提示されているのだと思います。条件付きで巡視頻度の緩和が提案されており、直ちに省令も改正されています。

一方、これらの検討会がイメージするような産業医像に地域の産業医が対応するには、時間と労力が必要そうに思います。特に、地域の事業場の嘱託産業医の多くは、地域の忙しい臨床の傍ら、産業医業務を務めなくてはなりません。また、事業者側への啓発と対応も必要です。求められる産業医の在り方にむけて、どういったアクションを起こしていくべきでしょうか。学会と産業医部会はどこへ目指すべきでしょうか。地域の産業保健のレベルを向上させるため、産業医の果たす役割は益々重要です。行政、事業者を巻き込むことも必要かもしれません。産業医や産業保健の各専門スタッフの育成とレベル向上を図りながら、地域の労働安全と労働者の健康保持増進に寄与していく、そのような姿を産業医部会に期待したいと思います。

## 日本産業衛生学会専門医制度の改定について

産業医科大学 産業生態科学研究所 大 神 明  
作業関連疾患予防学 教授

この4月から社会医学系専門医協会による社会医学系専門医制度が始まった。この項では社会医学系専門医制度発足に伴う、日本産業衛生学会専門医制度の改定について少し解説したい。

本稿の内容は第90回日本産業衛生学会総会期間中の説明会で発表した内容である。

これまで、日本産業衛生学会の専攻医試験を受けて専攻医手帳を取得し、指導医の指導の下、認定研修施設で3年以上実務研修をすれば日本産業衛生学会専門医試験（以下、産業衛生専門医試験）を受験することができた。

### 改定のポイントその1：専門医試験受験に社会医学系専門医取得が必須となる。

社会医学系専門医は、3年間のプログラム修了後に（社会医学系）専門医試験を受験して合格すれば認定される。このタイトルを持っていないと、産業衛生専門医試験は受験できない、というのが原則となる。

### 改定のポイントその2：専門医の実務研修が年度制から単位制になる。

週1日×1年の実務活動を1単位とし、9単位以上の取得が専門医試験までに必要となる。ちなみに、「専属産業医」の定義は、週3日以上勤務であるから、専属産業医を3年以上執務していれば、9単位は取得できることとなる。ただし、1年間で取得できる単位の上限を3単位までと定めるので、週4日以上産業医として執務しても1年で獲得できる単位は、後述の補助単位を含め3単位までとなる。

### 改定のポイントその3：社会医学系専門医を取得すれば単位数の優遇がある。

社会医学系専門医制度には3つの主分野（産業・環境、行政・地域、医療）があるが、産業・環境を主分野とした社会医学系専門医は専門医取得後に日本産業衛生学会の専攻医試験を免除とし、専攻医手帳を申請取得できる。その際に6単位を付与される。他の2分野を主とした社会医学系専門医は同様に専攻医試験を免除とし、専攻医手帳を申請取得できるが、その際に3単位が付与される。

これにより、産業・環境を主分野とした社会医学系専門医は残り3単位を実務により取得すれば、産業衛生専門医試験を受験することが可能になる。（他の主分野のものは同様に残り6単位を取得すれば受験可能）

### 改定のポイント4：従来の専攻医試験も継続して実施される。

従来実施していた専攻医試験は継続的に実施される。ただし、この試験は社会医学系専門医のサブスペシャリティ、あるいは他の臨床系の基本領域専門医取得後のサブスペシャリティとして位置づけられる。よって、移行措置期間以後は、専攻医受験資格には基本領域専門医資格（あるいは旧各臨床専門医資格）が必要となる。

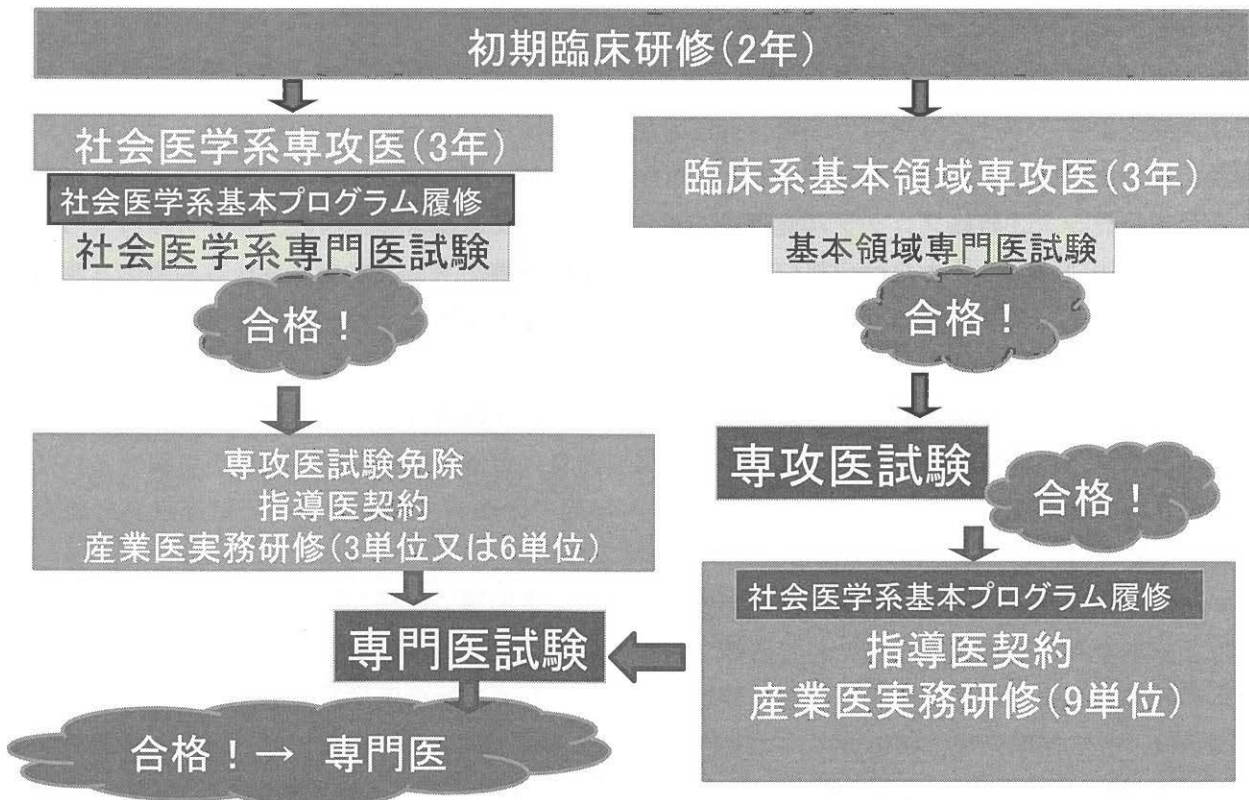
### 改定のポイント5：補助単位の設置と専攻医手帳の有効期限延長

前述のように新たな実務研修の修了要件が「3年以上」から「9単位取得以上」へと変わるが、学会発表・論文査読・指定講習会参加等に対する補助単位（0.1～1単位）を設ける。専攻医手帳の有効期限を3年から5年に変更し、更新は1回のみ認められる。（すなわち手帳取得後、最大10年以内で実務研修を修了しなければいけない）

以上の改訂内容は、第90回日本産業衛生学会総会の審議・承認を経て平成30年より施行される予定である。この改定は平成29年3月以降に初期臨床研修を修了した医師からは確実に適用されるが、移行措置の対象となる医師が多数おられると思われる。以下に移行期間の対応例を示すが、不明な点は専門医制度委員会事務局までメール([sanei-senmoni@mbox.med.uoeh-u.ac.jp](mailto:sanei-senmoni@mbox.med.uoeh-u.ac.jp))にてお尋ね頂きたい。

- ①平成29年4月までに既に専攻医試験に合格し、専攻医手帳に基づいて実務研修を開始している医師
- 1) 社会医学系経験3年以上：産業衛生専門医試験を受験可
  - 2) 社会医学系経験3年未満：社会医学系専門医試験受験必要。合格後、産業衛生専門医試験受験可
- ②医歴が3年以上あって、これから産業衛生専門医を取得しようとしている医師（臨床医を永年勤めていて、今後産業衛生専門医を目指そうとする医師を含む）
- ①従来の専攻医試験を受験し、合格後、研修手帳に基づいて9単位以上の実務研修必要。専攻医研修期間中に社会医学系専門医制度基本プログラムを修了する必要あり
  - ②全国各地の社会医学系専門医プログラムに入り、3年間の研修プログラムを経て社会医学系専門医を取得する
- 上記①②のいずれかの場合、産業衛生専門医試験受験可。前述のように、平成32年以降上記①の場合は、これに加えて来年施行予定の臨床系基本領域専門医取得が必要になると思われる。

## 日本産業衛生学会専門医になるまでの過程(新)



## 社会医学系専門医制度での研修施設について

日本産業衛生学会 理事 大久保 靖司  
東京大学環境安全本部 教授

産業衛生専門医を取得するあたり、原則としてその基本領域に位置づけられる社会医学系専門医を先に取得することが求められることとなった。その社会医学系専門医は研修プログラムに沿って研修が進められ、社会医学全般について知識経験を深め、日本の公衆衛生の質の向上を図ることを目的としている。そのため、行政・地域、産業・環境、医療の3分野全ての研修を行うこととしており、実践現場として、行政機関、職域機関、医療機関、教育・研究機関を設定しており、それぞれの研修は研修施設において行うこととされている。

### 研修施設の区分

社会医学系専門医研修の施設は、専門研修基幹施設(以下、基幹施設)、専門研修連携施設(以下、連携施設)、研修協力施設(以下、協力施設)の3種類に分けられる。

基幹施設は、地域において専門領域の中核を担う行政機関や職域機関、教育・研究機関、医療機関であり、研修プログラムおよび履修の管理を行う。連携施設は、基幹施設と同じ分野または異なる分野の実践現場での学習および学術面での研修等、専門研修要素の全部または一部について指導を行う。さらに実践現場での学習のために協力施設が置かれ、これらの施設が協力して専門研修施設群を形成して研修プログラムを運営し、3年間の専門医研修を行う。

専攻医は、基幹施設、連携施設、協力施設のいずれにも在籍もしくは利用して専門医研修を受けることができる制度となっている。

### 産業保健現場の研修施設への関与

産業保健現場としては、労働衛生機関、事業場などが挙げられる。これらの施設は、基幹施設、連携施設、協力施設のいずれにも登録することは可能であるが、基幹施設には、①指導医、②研修プログラム管理委員会、③研修プログラム統括責任者、④プログラム運営事務組織、⑤3分野のうち、1分野以上の専門研修の全体または一部の提供の5つの条件を満たすことが求められる。また、連携施設には、①指導医、②3分野のうち、1分野以上の専門研修の全体または一部の提供の2つの条件を満たすことが求められる。

専門医研修では3分野全ての研修が必要であることから、保健所等の行政機関、医療機関、大学の衛生学や公衆衛生学領域の講座等との連携が不可欠であり、労働衛生機関や事業場が単独でプログラムを運営することはできない。逆に、行政機関や大学等では産業・環境分野の研修施設が必要であり、産業保健現場としてはその点で研修プログラムに寄与することができる。

この研修プログラムの制度、研修施設の制度により、事業場等に在籍して産業衛生専門医を目指す場合は、事業場等が連携施設をまとめて研修プログラムを作成するか、少なくともどこかの研修プログラムの連携施設または協力施設となる必要がある。そのため、社会医学系専門医制度に参加を希望する場合は、社会医学系専門医協会のHPに認定プログラムが公開されているので、近隣の施設等と相談し、どのような形で社会医学系専門医制度に参加するかを検討することが必要となる。

**第27回 日本産業衛生学会全国協議会のご案内 (第3報)**

会期：2017年11月23日(木)～25日(土)

会場：高知県立県民文化ホール (高知市本町4丁目3-30) 他

運営実行委員長

(四国地方会幹事 高知県庁)

**杉原由紀**

第27回全国協議会は、テーマを「大規模災害に備える産業保健 ～過去に学ぶ・未来に備える～」とし、四国地方会長の菅沼成文先生(高知大学副学長)を企画運営委員長に、四国地方会のメンバーを中心に準備をすすめています。事前参加登録、一般演題の申し込みをスタートしましたので、ご案内申し上げます。

詳しくは HP(<http://plaza.umin.ac.jp/saneikyougikai27/index.html>) 参照をお願いします。

**11月23日(木)**

- ・シンポジウム「職場での発達障害を考える」
- ・教育講演およびシンポジウム「治療と仕事の両立支援をどうすすめるか」
- ・シンポジウム「危機に備える ～産業保健を含めたBCP立案」
- ・教育講演「男女共同参画について」
- ・シンポジウム「大規模災害における歯科の価値・役割」
- ・産業医部会自由集会「産業医自身の働き方改革を考える!」

11月24日(金)：ポスター発表は24日の予定です。

- ・実地研修
- ・シンポジウム「産業保健における疫学データの活用と倫理」
- ・基調講演「大規模災害に備える産業保健」
- ・メインシンポジウム「産業保健と防災」
- ・懇親会 (三翠園にて18:30より、カツオのたたき実演、よさこい踊り実演あります)

**11月25日(土)**

- ・教育講演「大規模災害時の産業医の役割」
- ・教育講演「支援者のメンタルヘルス」
- ・シンポジウム「化学物質とがん発生」

なお、同日程でカシオオープンゴルフトーナメントが高知県内で開催される予定です。早めに事前参加のお申込と航空機・宿泊等の予約をお願いします。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

過去に学ぶ・未来に備える

# 大規模災害に備える

第27回 日本産業衛生学会  
全国協議会

# 産業保健

2017 11 | 23<sup>Thu</sup> 高知県立県民文化ホール  
25<sup>Sat</sup> (高知市本町 4 丁目 3-30)

企画運営委員長 菅沼成文 (高知大学副学長・教授 日本産業衛生学会四国地方会長)

運営実行委員長 杉原由紀 (高知県庁 日本産業衛生学会 産業医部会幹事)

主催 日本産業衛生学会 四国地方会  
日本産業衛生学会

産業医部会・産業看護部会・産業歯科保健部会・産業衛生技術部会

共催 高知県医師会、高知県歯科医師会、高知産業保健総合支援センター

後援 高知県、高知労働局

開  
催  
合  
同

第61回

## 中国四国合同産業衛生学会

**第27回 日本産業衛生学会全国協議会 産業医部会自由集会のご案内**

四国地方会幹事 齋藤 恵  
(株)日亜化学工業 健康管理センター

「働き方改革」の取り組みが様々な形で進められています。ストレスチェック制度施行や、「治療と就業の両立支援」の導入などで、産業医の役割もますます重要になってきました。企業の専属産業医、嘱託産業医、自身の勤務する病院の産業医等、産業医としての働き方も多様となっています。

また、医療現場ではどうしても患者優先で対応する必要があるため、今までは産業保健が浸透しにくい部分がありましたが、医師の過重労働等の問題もあり、産業医として向き合わなければならない課題も増えています。

今回の自由集会では、「産業医自身の働き方改革」をテーマに、行政の視点から高知労働局矢野様、臨床医として長年経験を積んで来られ、現在は企業の専属産業医、また産業医部会長でもあられる齋藤政彦先生、臨床精神科医、産業医として活躍される若手医師代表として鈴木瞬先生に、それぞれのお立場よりお話をいただきます。会場の皆様にもご参加いただき、活発な意見交換を行いたいと思っております。皆様ふるってご出席くださいませ。

日 時 ; 平成29年11月23日(木) 17:30~19:30

会 場 ; 高知県立県民文化ホール 第3会場(多目的室6)

テーマ ; 「産業医自身の働き方改革を考える」

座 長 ; 関東地方会産業医部会幹事 ; 福本正勝先生

四国地方会産業医部会幹事 ; 齋藤 恵

演 者 ; 高知労働局 雇用環境・均等室 矢野 毅氏

大同特殊鋼(株) 齋藤政彦先生

SNC産業医事務所/豊後荘病院精神科 鈴木 瞬先生



## 第22回 産業医プロフェッショナルコース開催のお知らせ



中尾 智



浜口 伝博

主催 日本産業衛生学会 産業医部会  
後援 一般財団法人 労働衛生会館

実行委員長 中 尾 智  
企画運営委員長 浜 口 伝 博

本コースは、産業医の実務に役立つタイムリーな話題や研修機会を提供することにより、産業医の技能向上を目的とする研修プログラムです。受講者からは毎回高い評価をいただいております。かつ参加された受講者間のネットワークが広がることも魅力の一つになっています。参加は、専属産業医、嘱託産業医を問いません。成長意欲のある産業医の方をお待ちしています。

今回からWebでの申し込みといたしましたのでご協力お願い致します。

1. テーマ：産業医のための「もっと伝わる教育デザイン」～狙った効果を出すために～

研修ゴール：教育設計学の知見に基づき、選択したテーマで諸資料とスタッフの助言を参考に教育研修（従業員研修、管理職研修等）の設計ができ、かつ企業幹部に対してその紹介プレゼンテーションができることを目標とする。

2. 開催日：2018年1月27日(土)～1月28日(日)

3. 会 場：オンワード総合研究所 人財開発センター

<http://www.onward-kensyu.com/index.html>

〒224-0012 神奈川県横浜市都筑区牛久保3-9-3

TEL (045) 912-8812 FAX (045) 910-1090

(羽田空港より最寄り駅「たまプラーザ(田園都市線)」駅までの直行バスがあります)

4. 内 容：(各自PCをご持参ください)

ー 1 日目 (1/27) ー 13:00-18:30

講師：柴田喜幸 (産業医科大学)

<教育設計学ガイド>

- ① 13:00～13:55 開講 テーマ選択と自己流での研修設計案作成
- ② 13:55～16:15 教育設計学の知見に則った解説と設計書の改訂

## &lt;実践研修&gt;

- ③ 16:15～17:45 ツール開発と実践準備
- ④ 17:45～18:30 グループ内プレゼン・代表決定

## —情報交換会（懇親会）—

— 2日目（1/28）— 9:00—12:00

講師：柴田喜幸（産業医科大学）

## &lt;発表とフィードバック&gt;

- ⑤ 9:00～11:50 グループ代表による全体発表とコメント
- ⑥ 11:50～12:00 まとめ

5. 募集人数：50名

6. 受講料：日本産業衛生学会産業医部会員 20,000円（2日間コース）  
日本産業衛生学会会員（医師） 25,000円（2日間コース）

7. 受講修了者には修了証を産業医部会長名にて発行致します。

8. 申込方法等：下記のWebから申し込みをお願い致します。

Pコース申込フォーム

<https://ws.formzu.net/fgen/S46016214/>

1) 「必須」表示の項目は必ずご記入下さい。

2) 情報交換会(懇親会)：初日プログラム終了後、パーティ形式の懇親会を行います。担当講師、運営スタッフも参加しますので議論や懇親を深めることができます。参加ご希望の有無をチェックして下さい。

参加費用 ¥5,000（コース受講料とは別）。

3) 宿泊：研修会場にて宿泊をすることが出来ます（個数限定のため先着受付となります）。

シングル：¥10,000（税込、朝食付き、全室禁煙）。

ご希望の方は「宿泊希望」をご記入下さい。ただし、禁煙室のうち一部にて軽度タバコ臭の残る部屋があるため、繊細な方は各自お近くにて宿泊手配されることをお勧めいたします。

4) 申し込み事務局：

(株)ヒューマン・リサーチ内 産業医プロフェッショナルコース事務局

〒160-0011 東京都新宿区若葉2-5-16 向井ビル3F

(株)ヒューマン・リサーチ TEL 03-3358-4001

## 9. 応募の開始と締切：

- ・ 応募開始（先着順受付とさせていただきますのでご了承ください）
 

産業医部会員	2017年11月1日(水) 9:00から
非部会員（医師かつ学会員が必要）	2017年11月8日(水) 9:00から
- ・ 応募締切（部会員/非部会員を問わず） 2017年11月14日(火) 17:00まで
  - ア) 応募締切後、参加決定者には事務局より受講料振込み等の必要書類を郵送致します。
  - イ) お振込みいただく金額は、受講料、情報交換会費(希望者)、宿泊費(希望者) となります。
  - ウ) 2017年11月28日(火) を過ぎても事務局から連絡がない場合は、申し込み事務局までお問い合わせ下さい。

## 10. 補足：

- 1) 産業医プロフェSSIONALコースは「産業衛生学会専門医制度委員会」と連携しています。本コースは専門医研修中の先生方に対する教育コースに認定されています。
- 2) 産業医プロフェSSIONALコースは、日本医師会認定産業医単位の発行はしていませんのでご注意ください。
- 3) 当日は、PCをご持参ください。(模擬講義のスライド作成実習があります)

以 上

## 第90回 日本産業衛生学会 開催報告

## 『産業医フォーラムの開催報告』

関東地方会 幹事 福本正勝  
九州地方会 林田耕治

第90回日本産業衛生学会、最終日の午後、産業医部会総会に続いて、産業医部会フォーラムを開催しました。テーマには職域メンタルヘルスの大きな関心事である「発達障害」を取り上げ、講師は福田真也先生にお願いしました。

福田先生は長きにわたり、大学保健センターで発達障害の大学生の支援に尽力され、その成果は「大学生のこころのケア・ガイドブック(金剛出版)」「Q&A大学生のアスペルガー症候群(明石書店)」にまとめられています。さらに2006年からはあつぎ心療クリニックでうつ病リワークに従事され、うつ病等で休職し復職を目指す人たちの中にある、発達障害の特性とも向き合ってきました。

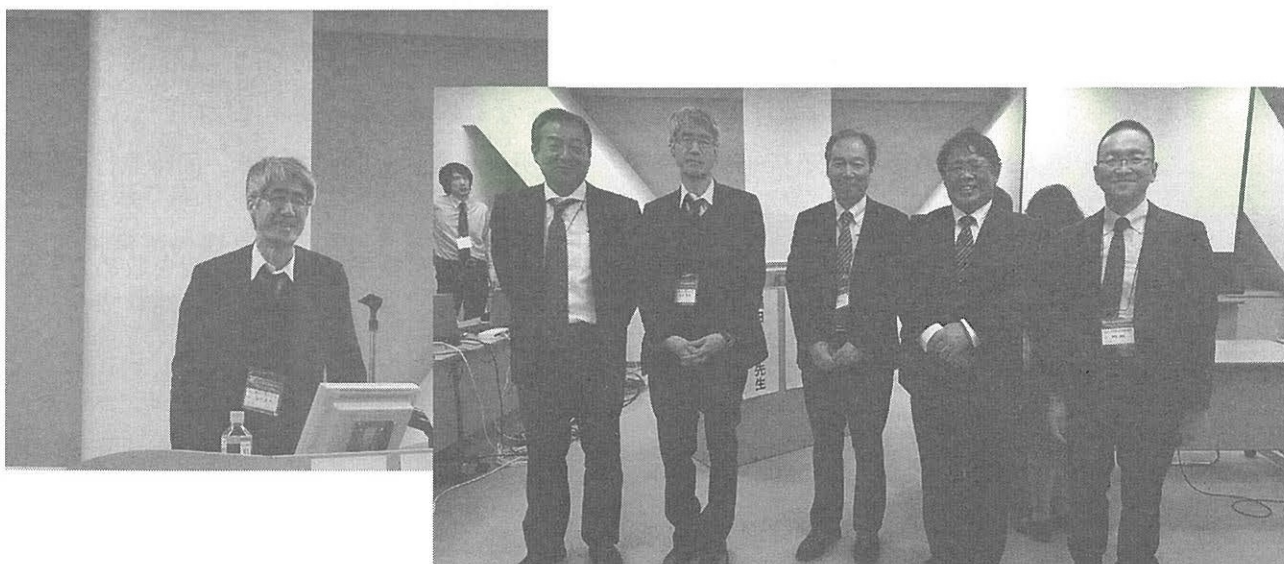
講演は、大学生の事例を含めた発達障害の解説、障害者雇用の変化と合理的配慮、職場における未診断の発達障害の理解と対応、あつぎ心療クリニックのリワークプログラムと進み、具体的な事例を含む解説は非常にわかりやすく、「現場でどうするのか」の示唆にあふれていました。

講演後の質疑応答では、発達障害の診断の是非、本人・職場への告知(説明)のあり方、診断のついている発達障害者への業務評価、本人が就業上の配慮に抵抗する場合の対応、といった実務的な質問が多く寄せられました。

福田先生が、会場で配布して下さった資料「自閉スペクトラムの特性がある参加者へのリワーク支援の手引き」は、実務家へのヒントにあふれています。うつ病リワーク研究会のwebサイトからダウンロード可能ですので、是非ご活用下さい。

<http://utsu-rework.org/info/2017spectrum.pdf>

会場は立見を含めて250人を超える来場者でいっぱいになりました。ご参加いただいた皆様に御礼を申し上げます。



## 『産業医部会 フォーラム体験記』



嘱託産業医

(ヤフー株式会社、大同特殊鋼株式会社ほか)

大多和 威行

今回の産業医部会フォーラムは、座長に社会福祉法人 長岡福祉協会 首都圏事業部 介護老人保健施設・新橋ばらの園の福本正勝先生とトータルヘルス株式会社の林田耕治先生、演者にあつぎ心療クリニックの福田真也先生を迎え、「発達障害と就労」というテーマで開催されました。

発達障害と申しますと、私にとってはサヴァン症候群を描いた「レインマン」という映画を思い出させます。ダスティン・ホフマンとトム・クルーズの演技に昔を懐かしむ気持ちがよぎって参りました。本題に戻します。2018年4月の精神障害者雇用義務化の動きもあり、昨今、発達障害は世間でもよく知られるものとなって参りました。しかし、名称のみが独り歩きし、その実像までを理解している人は、それほど多くないかもしれません。今回、「発達障害と就労」というテーマで、どのような配慮をする事でパフォーマンスを出しやすくなるのかを伺いたく、産業医部会フォーラムに参加させて頂きました。

福田先生は、まず、現場で問題となり易い発達障害として、自閉スペクトラム症ASDは三つ組の障害(コミュニケーションの障害・社会性の障害・柔軟に対応出来ない想像性)と特定感覚への過敏や鈍感があり、注意欠如・多動性障害ADHDは実行機能の障害が問題となるとご説明下さいました。その上で、障害者雇用された方の事例の問題としては、一人一人問題と対応が異なり画一的な対応が難しいために、具体的で明確な指針は未だなく配慮に差がある事を挙げられました。未診断の事例(入社後に就労困難や二次障害より発達障害を疑う例)に関しては、障害と個性の観点から幼少期からの特性の継続確認をもって診断を行うべきで、安易に発達障害者と決めつけてしまう事を避けるよう仰りました。支援のポイントとしては、一人一人異なる個別性を理解し、得意・不得意な業務、人間関係の困難さ、情報受容や発信の特性などを評価して行う事が重要である。具体的には、ASDならば同じ作業を単独で行い専念して頂く。複雑な対人関係、臨機応変な対応が必要な業務には向いていない。ADHDも得意な記憶力や発想を活かせる専門職、作業手順が明確な業務が向いており、同時並行の作業やミスが重大事故に繋がる業務は向いていないとの事でした。

私の担当しているIT企業にも発達障害の方がいらっしやり、バグ発見率で優秀な成績を収められました。ダイバーシティの考え方の中で発達障害を一個性と捉え、配慮の下で存分に活躍して頂ける社会に向けての一步が進んでいく手応えを感じるフォーラムでした。貴重なお話をどうもありがとうございました。

## 『公募シンポジウム

## 『産業医と精神科医の連携強化と確かな協働のために ～産業医部会と精神科産業医協会の対話』参加報告』



(一財) 君津健康センター 山 瀧 一

初めて「精神科産業医」の名称を耳にしたとき、メンタルヘルスが大きな課題となっている現実を実感しつつ、名状し難いざわつきを感じたことも確かである。シンポジウム会場は、恐らくは同じような課題意識を持っているであろう参加者で埋め尽くされた。

まず斉藤政彦先生(大同特殊鋼)は、予防医学の一分野を担う産業医の本来の役割を確認し、専門家との連携への期待とともに、職域に診療科による細分を持ち込むことへの懸念を指摘した。「水っぽい酒」「酒っぽい水」という軽妙な比喻を用いながら、“産業医”・“精神科産業医”の本質を厳しく問う発表であった。

次いで、高野知樹先生(神田東クリニック)は、嘱託産業医の活動に制約が大きく専門知識の必要性の高まりに課題を感じていること、他方、少なくない精神科医が職域との関わりに戸惑っているという調査結果を紹介し、産業医と精神科医の連携の必要性を強調した。精神科医がメンタルヘルス問題の過度の医療化を抑えるという視点は非常に興味深かった。

渡辺洋一郎先生(渡辺クリニック/(一社)日本精神科産業医協会)は、メンタルヘルス担当産業医として他職種や産業医を支援した事例、体制を構築した事例など幅広い活動を提示し、また精神科産業医協会の概要と、「産業医かつ精神科医」という目指す姿を紹介した。精神医学分野も予防的アプローチに取り組むべきという思いを感じさせるものであった。

最後に深澤健二先生(アドバンテッジリスクマネジメント)は、企業と患者、主治医、産業医の立ち位置を図式化し、それぞれの差異と、相互に理解し連携することの重要性を強調した。「ブラック産業医」の問題は、このあるべき姿から逸脱したところにあると言えよう。

フロアを交えての討議は熱気を帯びたものとなった。差異はありつつも、相互の連携が必要ということは一致していた。「職場のストレス・メンタルヘルス＝精神科医の取り扱うべき分野」という社会の理解(誤解)がそのまま『精神科産業医』の名称がもたらすざわつき感に繋がっていると思われるが、産業医が専門医とも連携しつつ実績を重ねていくことが、それを正すことにつながるの思いを新たにされた。



## 『公募シンポジウム

## 「産業保健好活動事例(GPS)の今後の収集と活用」参加体験記』

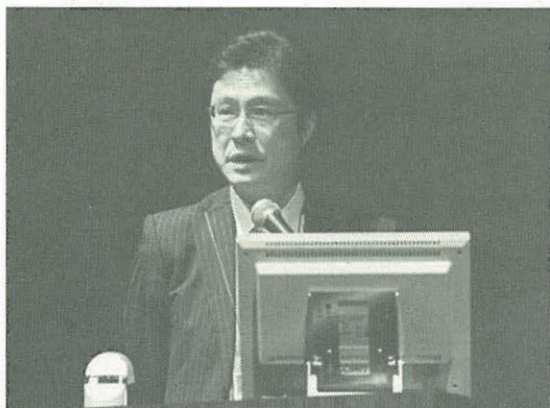


パナソニック健康保険組合  
健康管理センター 伊藤 正人

上記にシンポジストとして参加しました。周知のごとく、生涯教育委員は産業保健活動にかかわる専門家の生涯教育の課程で習得すべき課題を16ステップ、104の研修目標にまとめた「産業保健専門職のための生涯教育ガイド」を2005年に出版しています。これを運用する中で、新たに視聴覚教材の開発が必要との認識が生まれ、良好実践事例(GPS; Good Practice Sample)を学会内から広く募集し、学会ホームページ上に提供、毎年優秀表彰も行い活性化を図っています。今回、GPSの更なる活性化を図るために、当シンポジウムが企画されました。



まず、「産業歯科部会」の尾崎先生は生涯教育という観点で、GPSの時代のトレンドを整理する必要があるが、生涯教育ガイドに合わせて投稿することで技能の向上が期待されとのご発表がありました。「産業技術部会」の竹内先生からは有害要因関連のGPSが少なく、リスクアセスメントに関する投稿が期待され、多くのGPSが集まれば体系的に整理できるとのご発表がありました。続いて、「産業看護部会」の高崎先生からは、現任教育の一環と位置づけられれば、広く産業看護職に活用され、社会的認知度も高まるとの趣旨の発表がありました。「産業医部会」を代表して小職は、先ず現状分析を行い、今までに収集した全GPSを分析しました。結果はステップ3(産業保健方針と計画を確立する)やステップ8(健康リスク対策やの実施を推進する)等が多く、逆にステップ11(救急およびプライマリー体制を確立する)やステップ10(作業適正と病後復職を支援する)等が少ない傾向でした。このうち産業医部会員の投稿に限ると「健康



管理・リスク対策および健康保持増進」や「メンタルヘルス関連」が過半数を占める結果となり、分野によるバラつきが大きく、分野の標準化や投稿数の拡大を図らないと、現場に役に立つGPSデータベースとはなりえないことを指摘させていただきました。この改善には、広報拡大、投稿メリット、利用しやすい環境等々、課題は山積しているとの趣旨を発表致しました。最後に「ベストGPS賞者」の幸地先生(古河電工)がベストGPS賞を受賞

したことで一部の職場に留まっていた敷地内禁煙活動がより大きな組織へ展開するきっかけとなったとのご発表がありました。

座長の宮本先生(新日鐵住金)と住徳先生(アサヒビール)の素晴らしい司会進行で討論が進められました。その中で、「生涯学習ガイド」発行当時の小木委員長に、GPS発展を模索する今回の企画を支持するお言葉を頂きました。また、秋は産業保健の実践に特化するという意味において、「日本産業衛生学会GPS協議会」にしたかどうかの提案にも、圓藤会長先生から、ご賛同の言葉を頂いたことは、未来への大きな展望になると感じた次第です。今後のGPS発展に向けて、当シンポジウムが少しでも参加者の意識改革になったことを期待しています。



また、秋は産業保健の実践に特化するという意味において、「日本産業衛生学会GPS協議会」にしたかどうかの提案にも、圓藤会長先生から、ご賛同の言葉を頂いたことは、未来への大きな展望になると感じた次第です。今後のGPS発展に向けて、当シンポジウムが少しでも参加者の意識改革になったことを期待しています。



## 『緊急企画シンポジウム

### 「過労自殺をなくすために～近未来に向けて取り組むべき課題」の開催報告』



株式会社 ボーディ・ヘルスケアサポート 茅嶋 康太郎

第90回日本産業衛生学会が2017年5月11～13日の3日間、東京ビッグサイトTFTビルにて開催されました。メインテーマは「産業保健近未来図」ということだったのですが、昨年11月に話題になった、電通の「過労自殺」事件を受けて、緊急シンポジウムが企画開催されました。日本における過重労働対策は、過労自殺に関する2000年の最高裁判決(同じ広告代理店の事例)にも大きな影響を受けて、ガイドライン等が整備され、今日に至っていますが、奇しくも過労死等防止対策推進法が施行され、初めての「過労死等防止対策白書」が国から公表されるタイミング(2016/10/7)で電通の女性社員の自殺が過重労働による労災と認められた(9/30付)と記者会見で明らかになり、社会に大きなショックを与えました。過労死等調査研究センターに在籍時にこの企画の座長の話をいただいたのですが、過労





死等の中で特に「過労自殺」を取り上げて、産業衛生の分野からその防止にどのような役割が果たせるのか？ という視点で考えてみたいと思いました。

1. 自殺総合対策推進センターの本橋先生に「自殺対策基本法と過労自殺対策について」というお題でこれまで取り組まれてきた自殺対策の概要について解説していただき、過労自殺対策は産業衛生の分野だけでなく、職域と地域の連携の中で取り組むべき課題であるという示唆をいただきました。2. 近畿大学の三柴先生には法律家の立場から過労死等関連の裁判判例についてご紹介いただき、個人と組織の双方が「働き方」について再検討、進化し、環境適応していけるか、というのが本質的な課題であるというご意見をいただきました。国による長時間労働の上限規制、取り締まりも有効かもしれませんが、結局は「働き方改革」であり「健康経営の推進」なのだと思います。3. 日立製作所の林先生には産業医の立場から、4. SCSKの山口先生からは会社の立場から(人事労務)、企業における取り組み、良好事例についてご紹介いただき、感銘を受けるとともに、あらためて主役は企業とそこで働く人たちであり、産業保健に関わる専門家の立場としては、いかに企業活動をサポートしていけるかという視点で考えることの必要性を再認識させていただきました。当日は立ち見も多く出るような盛況で、多くの質問や活発な議論もなされました。皆様ありがとうございました。



**シリーズ 私たち頑張っています！****『二足の草鞋を履く生活』**

(北海道地方会)

(さがた けんいちろう)

株式会社 相方産業医事務所 **相方 謙一郎****はじめに**

ある日のこと、「私たち頑張っています！」への寄稿のご依頼をいただき、大変光栄なことだと思う反面、「頑張っています」と胸を張れるだけの活動をしているのか疑問を感じながら原稿を書いています。

**二足の草鞋を履くまで**

平成6年に大学を卒業し、臨床医を経て縁もゆかりもない北海道へ移住。企業外労働衛生機関で勤務した後、独立系産業医に憧れ、労働衛生コンサルタント事務所を開業しました。開業後の数年間はバイト中心の生活を覚悟していましたが、お世話になっている諸先生方からのご紹介や、思わぬところからの産業医業務の依頼などがあり、経済的な問題は比較的速やかに解消され、事務所の経営はまらず順調でした。嘱託産業医としてメンタル不調者へ対応するにあたり、精神医学的な知識の乏しさを痛感し、精神科病院の門を叩いたところから二足の草鞋を履く生活が始まりました。現在のところ、産業医活動は週に1日、月にすると4日しか行っておりませんが、本年6月に事務所を法人化するに至りました。残りの週4日は精神科の病院で臨床業務を行っています。

**産業医と臨床医**

精神科臨床では、産業医活動とは縁遠い疾患も扱いますが、臨床での経験が自身の産業医活動に幅を持たせてくれています。一方で、産業医活動で得たものが精神科臨床で役に立つことも多く、休職中の患者の上司への対応などは産業医としての経験が生かされる場になります。復職の際には、産業医との連携も視野に入れて臨床医として上司に対応しますが、「産業医はいるのですが…」あるいは「メンタルは専門ではないので対応できないと産業医に言われた」と言われることも珍しくありません。臨床医と産業医の両視点からメンタルヘルス不調者に対応できるのも二足の草鞋の副産物と考えています。

**今後の産業医活動**

地元、北海道日本ハムファイターズの大谷選手は“二刀流”が注目されています。彼のような才能に溢れた選手でさえ、二つの役割を掛け持つことは難しいとされてきました。“二刀流”と“二足の草鞋”では比べ物になりませんが、臨床医と産業医を掛け持つことの難しさを時に感じます。今後も「二兎を追う者は一兎をも得ず」にならぬよう、追いかけるべき一兎は「産業医活動」と考えていますが、優柔不断な自分にはどちらの面白さも手放せず、二足の草鞋を履く生活はまだ続きそうです。



## 『これからも続けたい産業医』

(北陸甲信越地方会)

金沢市保健所

地域保健課

感染症対策係

北 岡 政 美

石川県にある金沢市保健所の北岡政美と申します。今回執筆の機会をいただきありがとうございます。現在は、金沢市保健所の業務に加え、金沢市の公営企業と金沢市役所内の一部の産業医をしています。

大学時代のアルバイト先での経験から、職場環境や働き盛りの世代へのアプローチが病気の予防につながるのではないかと思ったことが、産業医へ興味を持ったきっかけでした。卒後研修ののち、金沢大学大学院環境生態医学・公衆衛生学の大学院生を経て今に至ります。

大学院時代には、複数の異なる業種、規模の嘱託産業医を経験させていただきました。5年間在籍しましたが、約800人規模の製造業の工場から、50人程度の小規模な企業、全国に支店を持つ企業の支店などで勤務しました。産業保健スタッフ、人事担当者とともに協力しながら、問題解決のため試行錯誤しました。本には書いてない実際を肌で感じ、抽象的な表現ですが、産業医の仕事は会社の潤滑油になることなのかなと思いました。大学院の先生方にはさまざまな機会と御指導をいただき、深く感謝しております。また学会や産業医の研修の機会でお会いした先生方からもさまざまなことを教えていただき、ご縁や人とのつながりに救われ、ここまで来られたと感じています。

大学院修了後は、ご縁があり金沢市保健所で働くことになりました。主として感染症対策ですが、医療安全、医療機関への立入検査等に携わっています。住民や医療機関からの電話を毎日受け、さまざまな相談対応をしますが、産業医として関わった事例や経験、知識から、適切な回答ができることもあります。保健所に来て、少し産業医の仕事から離れるのかなと思っていましたが、保健所業務で得た視点や知識、経験が現在の産業医の仕事でも生かされています。

将来、自分がどのように進んでいくかはまだまだ未知数ですが、産業医の視点が追加されることで、さらに仕事が面白くなると思っています。また何かのご縁で産業医がメインの生活になる日が来るかもしれません。いろんな会社があるように、いろんな産業医がいてもいいのかなと思います。細々とも産業医を続けていきたいです。今後とも御指導御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## シリーズ はじめまして！



## 『はじめまして(入会のご挨拶)』

(中国地方会)

セントラル硝子株式会社  
宇部工場 診療所

鍋島 篤典

山口県の西、瀬戸内海に面する工場に勤務し始めて2年目になりました。工場の主力製品は吸入麻酔薬セボフランです。産業医の道へ進む前は、大学院では実験病理と、日々の業務として病理診断をしていました。産業医学と病理学は全く違う分野ではありますが、似ているところもあるのかなと考えることがあります。人体と会社、それぞれ個々や組織をみて、診断するという点では似ているように感じます。産業医の場合には、診断からさらにもう一步、前に進まなければなりません…。とはいえ、産業病理学というものがあれば、正常の組織や病変部というものがあるのかどうか、またそういうものが存在するのかどうかもわかりません。結局は研修医時代や大学院生時代と同じように、周囲の方々に支えられ指導をして頂きながら、暗中模索の日々を過ごしています。

そのような中で、様々な方から様々な相談を受けますが、正直に申しまして、私のような若輩に解決できるようなものではありません。バイブルである産業医活動マニュアルにも、相談の解決方法が載っていません。結局は、話を聞くだけで終わることが往々にして多く、解決するにしてもいつの間にか相談者自身で完結していることがよくあります。自分のしていることは業務や学問ではなくて、星占いか何かなのではないかと思うことすらあります。もう少し、科学的見地から自分のしていることを見直してみたいということもあり、また諸先輩方の人柄にも触れ、入会をさせていただきました。

最後に、これまでの話とは全く関係ないのですが、山口県といえばゴルフ、ということでゴルフを始めました。毎日毎日、朝は6時から、夜は23時過ぎまで練習場で打ちっ放し、体重は1ヶ月で5キロ落ち、両手にマメができ、左右の肋骨を骨折し、両手首を痛めたにも関わらず最初のスコアは172。レッスンプロにつけばよかったと後悔しました。とはいえ、ここだけの話、今では私にゴルフレッスンをしに診療所へ来る人が増えたお陰で上達し、この前のラウンドではハーフで63でした。

産業医活動では骨折や手首を痛めることはないですが、ゴルフと同様、皆様の支えなくしては正しい道を歩めないと思います。このような私ではありますが、はじめまして、どうぞこれからも御指導の程、よろしくお願い申し上げます。

	4	4	5	5	63
-	3	2	3	5	
-	7	6	8	10	
2	39	45	53		

ハーフで63



## 『はじめまして』

(近畿地方会)

パナソニック健康保険組合  
産業保健センター 藤井裕子

はじめまして。昨年よりパナソニック健康保険組合産業保健センターにて産業医を勤めさせて頂いております、藤井裕子と申します。

この度はこのような貴重な執筆の機会を頂き、ありがとうございます。

私は大学卒業後、二年間の初期臨床研修を経てからの約一年間、精神科病院に勤務しておりました。精神科医を志したきっかけは、様々な人の所謂「性格」、や「ものの考え方」についてもっと深く多角的に知りたいという、幼い頃から抱いていた好奇心でした。約一年間という短い期間ですが、様々な患者さんと接することができた貴重な期間だったと思います。

しかしながら精神科医として働いていると「なぜこの方は、こうなるまで周囲のフォローがなかったのか」、「症状や患者さんからのお話のみを聞き、その背景(例えば会社での態度や過ごし方)も分からずに対応していて良いのか」、「すごく狭い視野で患者さんを診てしまっているのではないか」といった疑問が尽きなかったことが、もっと予防医学に携わりたい、そして産業医として働きたいと決心した一番の決め手でした。

幸いにもご縁に恵まれ、現在は素晴らしい先生方のもとで日々研鑽させて頂いております。パナソニック産業保健センターは健康管理センターと産業衛生科学センターの二つの組織から成り、私は現在、約半分ずつ勤務しております。

健康管理センターの仕事としましては、昨年一年間にわたり健康管理室の業務について先輩先生の下で勉強させていただいた後、この春よりパナソニックコネクティッドソリューションズ社モバイルソリューションズ事業部守口の産業医に赴任させて頂きました。昨今叫ばれていますメンタルヘルスの問題を、その人の病状のみならず、性格や職場のバックグラウンドも踏まえ共に乗り越えて行くことの大変さを実感する毎日のなかに、大変やりがいを感じております。

また、産業衛生科学センターの仕事としましては、有害物質や振動工具等の取り扱いや騒音環境等で働かれている方々の特殊健診を、全国のパナソニックの事業所で行っています。ここでは特殊健診を軸にすることで、なかなかイメージの沸かなかった職場環境の大切さというものを肌で感じることができます。

まだまだ勉強・知識、そして経験不足を痛感する毎日ですが、すこしでも早く「頼れる産業医」となれるよう、努力して参ります所存です。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。





## 『はじめまして』

(関東地方会)

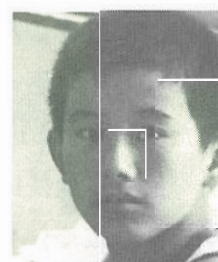
合同会社DB-SeeD代表  
文京白山労働衛生コンサルタント産業医事務所

神田橋 宏治

たまに山を歩きます。山は夜になると違う姿を見せます。全天空を星が占め、都心では見えない天の川が頭上に横たわります。月も存在感がありますし、注意を地上に落とせば暗い林のどこかから鳥や獣の音も聞こえてきます。

こういう人里離れたところにいると産業の偉大さを思い知ります。着ている服も履いている靴も泊まっているテントも製造業のおかげ、地図は出版業のおかげ、それで我々はなんとか大自然の中で生きていけます。そもそも山自体林業や土木業のおかげであることも多いです。

このあたりまでは意識していたのですが、そこで働く人々の労働という事に関しては最近産業医部会に入れていただけるまでは全く考えたことがなかったです。新しい目を開かせていただいた諸先輩方に感謝しております。



小学生の頃。  
学者になりたいと  
思っていました。

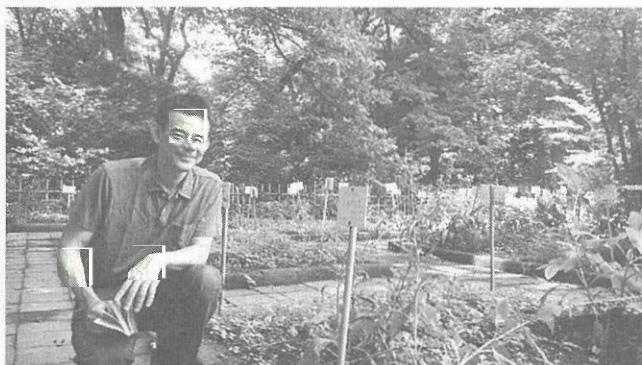
もともと九州の片田舎で高校時代を過ごし、東京に出てきて大学では数学を専攻しておりました。その後医学部に再入学して血液内科医・腫瘍内科医として医師人生をはじめました。やがて一般内科医として外来や在宅診療にも手を染めました。

今は週の半分強を産業医として、残り半分は内科医として病院や企業診療所などの外来・訪問診療や当直で働いております。

産業医として最初に入った職場は面談、特にメンタル疾患の面談が多くそれが凄く性にあっておりました。そこから本格的に労働衛生に興味を持ち、医局の先輩であるソニー(株)の青木克己先生の紹介で学会や部会にも参加させていただきました。

私生活としては妻と四人の子供に恵まれ、まあまあ幸せな生活をしているように感じております。

個人的な目標としては短期的には産業衛生専門医を目指しております。できれば歴史的なオリジン(であるだろう)工場をも見られるようになりたいと思っておりますがこの年齢からでは難しいのかもとという気もしています。将来的には、世界に冠たる本邦の産業医システムを発展途上国にも広めていくあたりでお手伝いできればと思っております。若輩者ではございますが今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



東大植物園で。山で間違っって食べないよう、危険な野草の勉強中。

## 新任幹事のご挨拶 等



## 『新幹事就任のご挨拶および若手論文賞受賞報告』

(東北地方会)

福島県立医科大学

医学部衛生学・予防医学講座

(かかむ たけやす)  
各務 竹 康

この度産業医部会幹事に就任いたしました、東北地方会所属の各務竹康です。昨年(2015年)の第89回日本産業衛生学会では、事務局を担当させていただきました。多くの方々にお越しいただき、盛況に終えることができましたこと、改めて御礼申し上げます。昨年末に残務処理の目処が付き、これで学会業務もお役御免と思っていたところ、引き続きこのような形で関わり続ける機会をいただくこととなりました。どうやら近々東北地方にて全国協議会の話もあるみたいで。

今回幹事就任にあたり、東北地方における産業医部会の今までの歴史を振り返りました。東北地方は面積も広く、交通も不便なため、一年に一度、夏に開催される地方会および産業医協議会が、数少ない情報交換の場となっております。例年活発な議論が繰り返されてきました。人材の育成も大切にしており、私も加入当初から地方会で多くの先生方から指導を頂き、現在につながっております。今後も地方会が重要な学びの場、意識共有の場となり続けるよう、環境整備に努めていきたいと思えます。

さて、私事ではありますが、この度生涯教育委員会若手研究者の会により創設されました、若手論文賞を受賞し、先日催された第90回日本産業衛生学会において、受賞講演を行いました。昨年の福島での学会は、「次世代につなげる産業衛生学の研究と実践」をテーマに開催し、目玉企画の一つとして、若手研究者の会にシンポジウムを依頼しました。その席において、若手の研究力向上のため論文賞の創設が発表され、2015年の巻号がついた論文を対象に募集となりました。今回、栄えある第1回受賞者に選出頂いたこと、感謝致します。

今回の受賞論文は、福島産業保健総合支援センターの調査研究として実施した除染作業員の労働衛生管理に関する研究の一環です。内容は除染作業員の熱中症関連要因についてで、地域に根ざした活動が評価されたものと受け止めております。福島県は東日本大震災にて、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響が大きく、現在もいつ帰れるか見通しも立たない避難者が多く暮らしております。この福島の復興に産業保健の立場として少しでも貢献するため、私自身の研究の軸として震災以降除染作業員の健康管理を主なテーマとしてきました。今後も地域に根ざした活動と、現場からの着想を大切に研究を続けられたらと思います。



## 『奨励賞受賞報告と新任幹事ご挨拶』



(東海地方会)

 東海旅客鉄道株式会社 (えんた かずひこ)  
 健康管理センター 遠田和彦

東海地方会所属の遠田(えんた)と申します。このたび、第90回日本産業衛生学会にて、奨励賞をいただきました。また、今期より産業医部会幹事を仰せつかりました。新任幹事としてのご挨拶と受賞報告を併せて書かせていただきます。まとまらない文になりますが、ご容赦ください。

私は千葉県出身ですが、産業医大を卒業し、神奈川県 of 病院で臨床研修を終え、福岡県の2つの病院を経て、JR東海の専属産業医として静岡県に着任しました。平成12年からJR東海一筋で約17年間の産業医実務に携わってきましたが、平成23年からは統括産業医として産業医や看護職や事務職等をまとめる仕事をしています。

平成12年の着任当時は、臨床経験豊富な60代の産業医の先輩達が次々と退職し、私達産業医大卒の若手が後任を担うという世代交代の時期でした。産業医とは何か、企業においてどう振舞うべきかを教えてくれる人もおらず、同時期に着任した先輩や同僚達と熱く議論しながら失敗を繰り返し、見様見真似で産業医業務を行い、健診データを眺める毎日でした。そんな折に出会った研究テーマが突然死予備群とされるブルガダ症候群のスクリーニングで、当時、循環器領域でトピックだった疾患への対策でしたが、私が産業領域から発信した情報はなかなか臨床領域では認めてもらえませんでした。しかし、今では当たり前になっている上位肋間誘導心電図を用いたスクリーニング法をどの施設にも先駆けて実践していたことは胸を張りたいと思っています。

このように実務も研究も順風満帆とはいえず、およそ賞とは無縁だった私がこのたび奨励賞という立派な賞をいただくことになり、それを知った当社の社長がお祝いの席を設けてくれました。企業経営者に産業衛生学会の価値を知ってもらえたことは、予期せぬ喜びであり、これまでご指導下さった多くの学会関係者へ少々のご恩返しになったかもしれません。

ところで、産業衛生学会において、多職種連携の話題や法改正に伴うトピックに関するテーマは多く扱われているようですが、法的に責任ある医師としてリーダーシップを発揮しなくてはならない産業医自体が今後どうあるべきかの議論は十分ではない気がします。今後、一人の産業医として、産業衛生学会における産業医部会の趣旨や意義についてしっかり考えながら、幹事としてお役に立てるよう努力したいと思います。今後とも宜しくお願いたします。





## 『産業医部会幹事への就任のご挨拶』



(中国地方会)

岡山労災病院 内科 岸本卓巳

本年度より中国地方会の幹事を担当させていただくことになりました岡山労災病院内科の岸本です。昭和53年に岡山大学を卒業して、昭和57年に山口県周南コンビナートにある南陽病院内科医長に就任し、複数の化学工場の産業医となって以来、広島県呉市、岡山市において30年以上産業衛生・労働衛生に関係した仕事をしています。その間、岡山、福山地方に特有ない草染土じん肺、珪肺、溶接工肺等のじん肺、呉では海軍工廠従業員等の石綿肺や中皮腫等の石綿関連疾患を呼吸器内科医として診断、治療を担当しました。

また、最近では近年クローズアップされるようになったメンタルヘルスや過労死についても関わりを持ってまいりました。この間、岡山大学公衆衛生学教室及び衛生学教室において、多数の先輩の先生方から労働衛生、労災補償に関する多くの事案についても勉強させていただきました。

現在は呼吸器内科と嘱託産業医の他に副院長を兼任し、病院の運営にも関わって多忙を極めております。また、厚生労働省労災疾病臨床研究事業として産業中毒に関する研究班の代表として調査研究にも関わっています。今回の幹事就任をきっかけに、新たな分野についても勉強して中国地方の会員の皆様のお役に立てればと思っております。日本産業衛生学会の皆様の御指導、御鞭撻をよろしくお願い致します。



2016年モンゴルワークショップにて

## 部会員からのお知らせコーナー



## 『第25回 日本産業ストレス学会開催のご案内』

(東海地方会)

ジャトコ株式会社

安全健康管理部 統括産業医

西 賢 一 郎

「一次予防」にシフトした学際的な研究視点から、労働者がいきいきと仕事ができる職場づくりを目指していく議論をしたいと思っております。学会前後には「ふじの国」静岡の見どころ・食べどころも楽しんでいただけると存じます。多数のご参加をお待ちしております。

記

会 期：平成29年12月8日(金)・9日(土)

場 所：静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

〒422-8005 静岡県静岡市駿河区池田79-4

東海道本線 東静岡駅(東海道新幹線 静岡駅乗換1 駅約3分)下車 徒歩約3分

大会長：巽 あさみ(浜松医科大学 医学部看護学科 地域看護学講座 教授)、西 賢一郎

テーマ：ストレス社会における産業保健・産業看護 ～一次予防へのパラダイムシフト～

事前参加登録期間：2017年6月1日(木)～10月20日(金)

参加費 (事前登録)：学会員 6,000円、非会員 8,000円、学生 3,000円

(当日登録)：学会員 8,000円、非会員 10,000円、学生 3,000円

プログラム：

メインシンポジウム：

「ストレス社会における産業保健・産業看護 ～一次予防へのパラダイムシフト～」

特別講演：

「職場におけるメンタルヘルス対策～ストレスチェックの実施及び現状」

安達 栄(厚生労働省労働基準局)

教育講演(3題)：

「職場のメンタルヘルスのリーダーシップとイノベーション」

川上 憲人(東京大学大学院)

「実効性のあるメンタルヘルス対策の樹立に向けて ～集団/組織のアセスメントツールの活用～」

河野 啓子(四日市看護医療大学)

「メンタルヘルス 一次予防に役立つ「職場ドック」プログラム～精神疾患・自殺予防と労働者参加型職場環境改善～(仮)」

吉川 徹(労働安全衛生総合研究所)

その他、シンポジウム5題、ワークショップ3題、一般演題発表

※詳細につきましては、大会HP(<http://www.procomu.jp/jajsr2017/>)をご確認ください。

日本医師会認定産業医制度研修(生涯)単位申請中

【第25回日本産業ストレス学会運営事務局】(株)プロコムインターナショナル

〒135-0063 東京都江東区有明3-6-11 TFTビル東館9階

Tel: 03-5520-8821 Fax: 03-5520-8820 Email: jajsr25@procomu.jp

## 産業医部会、各地方会 行事開催予定一覧(平成 29 年 8 月～平成 30 年 3 月)

開催年月	産業医部会	地方会	名称	日時・開催地
平成 29 年 8 月	会報 第 61 号(平成 29 年 8 月号)発行予定			
	専門医制度 関連	日本産業衛生学会 専門医試験		8 月 26(土)・27 日(日) 横浜オンワード総合研究所
9 月		四国地方会	第 4 階四国地方会 産業医部会サマー セミナー in 高知	平成 29 年 9 月 16 日(土)14:00～17:00 高知県立県民文化ホール第 7 多目的室 (高知市)
		近畿地方会	第 22 回近畿地方会 産業医部会研修会	平成 29 年 9 月 2 日(土) 14:00～17:00 大阪市立大学医学部学舎 4 階大講義室
10 月		北陸甲信越 地方会	第 60 回日本産業衛生学会 北陸甲信越地方会総会	平成 29 年 10 月 23 日(日)14:00-14:55 甲府市 ホテル談露館 アンバー(1 階) ※総会議事 12:00-13:00
11 月	平成 29 年度 第 2 回幹事会			平成 29 年 11 月 23 日(木)12:00-15:00 高知県立県民文化ホール(高知市)
	第 27 回日本産業衛生学会 全国区協議会			平成 29 年 11 月 23 日(木)-25(土) 高知県立県民文化ホール(高知市)
	第 27 回日本産業衛生学会 全国協議会 産業医部会自由集会			平成 29 年 11 月 23 日(木)17:30-19:30 高知県立県民文化ホール(高知市)
		中国地方会 四国地方会	第 61 回中国・四国 合同産業衛生学会	平成 29 年 11 月 25 日(土)14:00-16:00 高知県立県民文化ホール(高知市)
12 月	会報 第 62 号(平成 29 年 12 月号)発行予定			
平成 30 年 1 月	第 22 回 産業医プロフェッショナルコース			平成 30 年 1 月 27 日(土)～28 日(日) オンワード総合研究所 人材開発センター (横浜市都筑区)
		九州地方会	平成 29 年度 九州地方会 産業医部会研修会	平成 30 年 1 月 27 日(土) 14:00-16:00 博多駅バスターミナル 9 階大ホール (福岡市博多区博多駅中央街 2-1)
3 月		東海地方会	平成 29(30)年度 東海地方会産業医部会 懇話会	平成 30 年 3 月 10 日(土)13:30～17:00 (場所未定) ※その後懇親会あり。

内容等	その他
テーマ「法律家と考える産業医の責任」 講師 矢野公士(矢野公士法律事務所:高知市)	
テーマ:産業医のための過重労働対策セミナー 実行委員長:河津雄一郎(平和堂) 基調講演:「過重労働による健康影響に関する最新のエビデンス」 講師:宮崎洋介(産業医科大学特命講師) シンポジスト 「専属産業医の立場」:山田達治(京セラ) 「嘱託産業医の立場」:梶原隆芳(梶原産業医事務所) 「基礎医学の立場」:和泉弘人(産業医科大学)	
特別講演「医師の「働き方改革」について」 講師:堀岡伸彦(厚生労働省医政局医事課 課長補佐)	第 60 回北陸甲信越地方会(9:00-16:00)との 共催企画開催
「産業医自身の働き方改革を考える」 座長 福本正勝(新橋ばらの園) 斎藤 恵(日亜化学工業株) 演者 矢野 毅(高知労働局 雇用環境・均等室) 斎藤政彦(大同特殊鋼株) 鈴木 瞬(SNC産業医事務所)	
「社内診療所の診療で注意したいこと ～想定症例を基にした対応検討～」 座長 宇土 博(友和クリニック) 講師 吉永光一郎(日本製鋼所広島製作所) 「働き方改革につながる過重労働医師面接の実際 ～健康障害を起こさないために～」 座長 斎藤 恵(日亜化学工業株) 講師 中瀬勝則(中瀬医院)	中国地方会四国地方会合同開催
研修テーマ:産業医のための「もっと伝わる教育デザイン」 ～狙った効果を出すために～ 講師:柴田喜幸先生 -1日目(1/27)- 13:00-18:00(産業医科大学) <教育設計学ガイド> ① 開講 テーマ選択と自己流での研修設計案作成 ② 教育設計学の知見に則った解説と設計書の改訂 <実践研修> ③ ツール開発と実践準備 ④ グループ内デモ・模擬講義・代表決定 -2日目(1/28)- 9:00-12:00 <発表とフィードバック> ⑤ グループ代表による全体発表とコメント	主催:日本産業衛生学会産業医部会 募集人数:50名 受講料:日本産業衛生学会産業医部会員 20,000円(2日間コース) 日本産業衛生学会会員(医師)25,000円(2日間コース) 情報交換会(懇親会)参加費 希望者のみ:5,000円(受講料別) 初日プログラム終了後、講師も交え懇親会を行います。 応募開始:業医部会員 平成 29 年 11 月 1 日 9:00 から 非部会員(医師かつ学会員であること)同 11 月 8 日 9:00 から
研修テーマ:過重労働について 講師:空閑玄明(株式会社マツダ本社)	参加費:1,000円 主催:日本産業衛生学会九州地方会産業医部会 共催:福岡産業保健総合支援センター 産業医学推進研究会九州地方会 日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会 単位:日本医師会認定産業医生涯専門2単位(申請予定)
①特別講演: 「大学教員になって分かる産業現場の諸問題(仮)」 講師:塚原照臣(信州大学) ②『自身の産業医活動紹介』 講師 2-3名依頼予定	詳細決まり次第、地方会員へは連絡いたします。 事前申し込み必要 三菱重工業(株)大江西健康管理科 石川浩二 宛 kouji_ishikawa@mhi.co.jp

## 編集委員会よりお知らせ

### (1) 部会員からのお知らせコーナー

学会や研究会など部会員の関わる行事の告知や著書紹介など、情報の周知を目的としたコーナーです。掲載ご希望の方は、事務局宛てに原稿（字数400字程度＋写真1枚）をメールでお送りください。なお掲載に関しては、医部会の活動目的に照らし編集委員会にて審議のうえ決定させていただきますので、ご了承のほどお願いいたします。

### (2) 自由投稿をお寄せください

部会報は部会員の交流の場です。皆さまの自由投稿を歓迎します。編集委員会の方針として、より多くの先生方の産業医活動あるいは日頃思っていることなどをご紹介したいと考えています。字数1,000字程度にまとめ、事務局宛てメールにて、ご送付ください。

### (3) 部会報について、ご意見をお待ちしています

皆さまのご期待に沿えるよう、より一層誌面の充実に努めてまいります。ご意見や企画案など、是非、事務局までお知らせください。よろしくお願いいたします。

### 【事務局連絡先】(公社) 日本産業衛生学会 産業医部会事務局

Eメール : sanei.4bukai@nifty.com TEL : 03-3358-4001 FAX : 03-3358-4002

### 編集後記

今年度より色川先生の後任として総務担当の重役に就任し、本編集委員も卒業させて頂く所存でした。しかし、たった2年で、編集委員として大した役目を果たせていないこと、また担当することでいろいろと勉強にもなることなどから、斉藤部会長、谷山編集委員長らのお計らいのもと留任となりました。引き続き、微力ではありますが、本誌の充実、発展に貢献できればと思います。今号では、事前の編集委員会メール審議で、毎年のフォーラム以外にも、春の産業衛生学会の企画を取り上げることが決定しました。本部会に関わりの深い3つのシンポジウムを取り上げることになり、どれも執筆頂いた先生方のおかげで、臨場感あふれる読み応えのある記事となりました。その他の記事も含め、ご協力頂いた先生方のおかげをもちまして、会員の先生に十分満足いただける形となったと自負しております。また感想やご意見など、ぜひよろしくお願い致します。

(K)

### 編集委員会委員

○石川 浩二 (三菱重工)、 彌 富 美奈子 (SUMCO)

◎谷山 佳津子 (朝日新聞)、 原 俊之 (北海道労働保健管理協会)

◎ : 編集委員長、○ : 第61号編集担当 (五十音順)